

《履修上の留意事項》高齢期に関する心理的支援について、実際のアセスメント法、介入法の基礎を学ぶ講義科目である。大学院に進学して公認心理師を志望する学生を対象とする。本学大学院においてはこの科目を履修していることを前提として講義科目が組まれる予定である。

《担当者名》○ 百々 尚美 (ndodo@hoku-iryo-u.ac.jp) 橋岡 禎征(hashioka@asahikawa-med.ac.jp)

【概要】

高齢者に関する臨床心理学的アセスメント・心理療法について、その概要を学ぶ。

【学修目標】

主として高齢者を評価する心理検査の概要を学び、学生同士で評価を体験する。

主として高齢者を対象とした心理療法の概要を学び、視聴覚教材および学生同士の実習を通して、体験する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	認知症	認知症について学ぶ。	橋岡 禎征
2			
3	高齢者の評価・心理的介入	高齢者に対する臨床心理学的評価・介入について学ぶ。	百々 尚美
4 }	前向き記憶機能検査	前向き記憶機能検査の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	百々 尚美
5			
6 }	逆向性記憶機能検査	逆向性記憶機能検査の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	百々 尚美
7			
8 }	視空間認知機能検査	視空間認知機能検査の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	百々 尚美
9			
10 }	前頭葉機能検査	前頭葉機能検査の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	百々 尚美
11			
12 }	失語症検査	失語症検査の概要を学び、相互に実習・評価を行う。	百々 尚美
13			
14 }	認知リハビリテーション	認知リハビリテーションの概要を学び、相互に実習・評価を行う。	百々 尚美
15			

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

講義内における小テスト、実習、およびレポートで評価する。

【参考書】

神経心理学的アセスメント・ハンドブック [第2版] 金剛出版 2019年

【備考】

1. 学習教材（授業資料）の配信、学習課題の提示
 - ・ 授業資料の配信はGoogle Classroomを利用して学習課題を提示する
2. 授業に関する学生相互の意見交換やグループ学習の実践
 - ・ 学生相互の意見交換を目的にGoogle Classroomを活用する
3. 任意の時間での授業の受講
 - ・ Google Classroomを利用したオンデマンド型授業、オンライン授業を行う場合もある
4. 授業時間中にその場で学生の理解度を把握する技術の活用
 - ・ Google Formを活用し、授業時間中にその場で学生の理解度を把握する
5. 欠席回数について
 - ・ 各自で責任を持って管理すること（欠席回数についての問い合わせには原則応じない）。
6. 課題について
 - ・ 課題の提出締切を厳守すること（遅延の場合は課題の評価は減じられる）
 - ・ 課題内容において、剽窃などの不正がなされることは極めて低劣な行為であり、いかなる事情があろうとも忌避されるべきものである。そのような不正が発覚した場合、あるいは強く疑われる場合には、以降、その学生からの提出物は評価の対象から除外する。

【学修の準備】

1. 予習について
 - ・ シラバスの内容を参考に、参考書および講義資料を熟読し、講義内容を予習すること（20分）
2. 復習について
 - ・ 講義内容を見直し、不明な点は関連書籍をもとに確認し、理解を深めておくこと（20分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

DP3. 社会の様々な分野において、心の問題を評価し、それを適切に判断し援助できる基礎的技能を修得している。
DP1. 心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得している。
上記、心理科学部ディプロマ・ポリシーに適合している。

【実務経験】

百々 尚美（公認心理師）橋岡 禎征（医師）

【実務経験を活かした教育内容】

医師、公認心理師としての医療・福祉・教育での実務経験を活かし、臨床・研究の成果を反映させた講義内容となっている。